



特集1

# 「米」全量集荷を目指す

## JA古川米 集荷・販売推進大会

本JAは9月10日、平成30年産米の集荷・販売推進大会を本店で開き、全量集荷を目指すことを確認しました。

大会では、佐々木稔組合長が「全量JAへ出荷をお願いしますとともに、1等米づくりに尽力してもらいたい」と挨拶。全農宮城県本部米穀部遠山洋次長が「平成30年産米の集荷・販売について」説明しました。集荷具体策としては、実需者の要望する数量を供給し、宮城米の販売棚を確保していくため、集荷数量の積み上げに取り組みます。

販売の具体策としては、実需者を明確にした事前契約の拡大に取り組むことで需要創出を図り、翌年産以降の「生産の目安」へ反映させるとともに宮城米の有利販売を図ることを説明しました。

この日は、集落委員、認定農業者など約100人が参加。基調講演では水島米穀株式会社常務執行役員の北川直販売営業部長が「米の消費動向について」と題し、講演しました。

良品質・良食味米生産に向け、ガンパロー三唱をする参加者

## 大会宣言

1. 宮城米の安定生産、良品質・良食味米生産及び安全・安心への取り組みを徹底します。
2. 契約栽培の取り組み強化により、集荷力向上、安定供給体制を構築し、米主産地としての地位向上を図ります。
3. 「環境保全米づくり全県運動」の高度化の取り組みを徹底し、宮城米ブランドの強化を図ります。
4. 消費地に信頼される検査・保管管理に努めます。

## 目次

- 2 特集・ほのぼの
- 4 集落座談会
- 6 JATピックス
- 8 夢職人
- 9 暮らしのアドバイス
- 10 ふれあい広場
- 12 情報コーナー
- 16 JA古川の自己改革

## ほのぼの

稲刈りの最盛期がやってきた。今年春先から好天に恵まれ、作況指数「やや良」ということで農家の皆さんも今年の稲刈りには力が入るのではないかと思います。とにかく何事もなく無事稲刈りが終わることを祈っている。

さて、不肖私、昨年から家庭菜園を担当している。何のことはない、母が昨年亡くなったためにやらなくてはならない羽目になったのである。昨年は玉ねぎから夏野菜のナス、キュウリ、ミニトマト、ピーマンそして大根、白菜まで。ピギナーズラックという言葉があるが、当にその言葉にふさわしく、どれも素晴らしい出来栄であった。我ながら素晴らしい一年であった。ところがである。二年目の今年、ジャガイモ、ナス、ミニトマト以外失敗の連続であった。二年目のジンクスなのだとそう思っていると言うよりそう思いたい。野菜作りを甘く見ていたのかもしれない。ここにきて最もショックだったのがこの夏、白菜の定植後の激しい雷雨で定植した大半が消えて無くなったことである。後の祭りである。意気消沈している。が、いつまでもそうしてはいられない。かわいい孫のあの「じいじの野菜おいしい」の言葉を聞くために、来年は初心に戻って一つ一つ基本に忠実に野菜作りに取り組みんでいこうと決心している今日この頃である。

(佐々木専務)